



SBIいきいき少短“終活”に関するアンケート調査(第1回)

～“終活”の認知率は90%、ただし具体的内容を知らない人は25%～

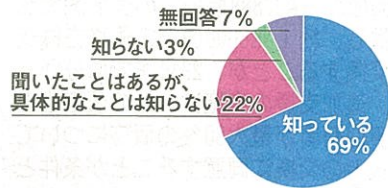
SBIいきいき少額短期保険(本社・東京都港区、社長・島津勇一氏)は、保険加入者を対象に“終活”に関するアンケート調査を実施し、1400人から回答を得た調査結果を報告した。

加入者アンケート調査結果の詳細(2016年12月当社「加入者アンケート」結果より)

(1) “終活”を知っているか?

「知っている」、「聞いたことはある」と回答した方は全体の約91%を占めた。しかし、およそ5人に1人の方は「聞いたことはあるが具体的なことは知らない」と回答しており、“終活”という言葉が認識されているものの、実際に何が“終活”なのか把握されていないことがうかがえる。

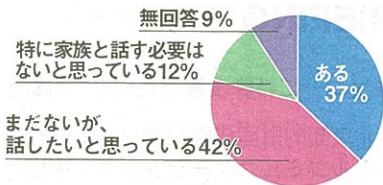
「知っている」と回答した人からは、「実父が亡くなる1年前にすべての準備をして行ってくれた。私達(子供)と母は、何も迷わず父の遺言に従い円満に済むことができた。やはり終活は残された者として大切な事だった」と実体験から“終活”の大切さを感じたというコメントも寄せられた。



(2) “終活”について、家族で話したことはあるか?

「まだないが、話したいと思っている」が約42%と最も多く、「ある」の約37%を上回っている。「ある」と回答した人は、配偶者や子供に保険、葬儀方法など、もしものときに家族が困らないよう相談をしているとのコメントが見受けられた。

一方、家族と話せていない人のコメントからは、「子供達が早過ぎる話だと思いつつ聞き入れてくれず全て、文書にて準備をした」など、家族にとって“終活”はまだ早い、あるいはネガティブな印象があることが分かった。



(3) “終活”について

①あなた自身がすでに行っていること(複数回答可)

自身が行っていることとして最も多いのが「お金の準備(保険等)」(730人)、次いで「旅行や趣味など

いまの人生を楽しむ」(595人)、「お墓の準備」(497人)となった。

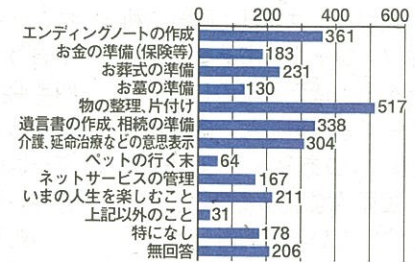
お金の準備として、「生命保険のリスト作成、もしものときの連絡先リストの用意」なども合わせて行うことで、家族がスムーズに対応できるようにしているという回答が目立った。



②あなた自身がまだ行っていないが「これから行いたいこと」(複数回答可)

自身がこれから行いたいこととして最も多いのが「物の整理、片付け」(517人)、次いで「エンディングノートの作成」(361人)、「遺言書の作成、相続の準備」(338人)となった。

最も多い回答のコメントとして、「亡母の四十九日が済んでから、母の部屋を整理した際に、着物や洋服がたくさんタンスの中に有り、処分するのが大変だった」というように、自身が大変な思いをしたことにより家族への負担とならないよう、今後行っていきたいと考えている人が多い。



③家族や親しい友人に「行ってほしいこと」(複数回答可)

家族や親しい友人に行ってほしいことは、「特になし」(405人)という回答が最も多い。

また、行ってほしいことは、回答数が多いものから「物の整理、片付け」(169人)、「旅行や趣味などいまの人生を楽しむこと」(130人)、「お墓の準備」(106人)となった。

お墓や物の整理などは自身で行うようにして、家族や親しい友人には「面倒をかけたくない」とのコメントが多く、事前に家族と“終活”について相談をしている人は、それで十分と感じているようだ。

